



第2会場 ● 2F 自由研修室

■司 会／豊田 浩司 益田市教育委員会社会教育課 主任主事
上野 敦子 山口市井関にここクラブ 主任支援員

分科会の進め方 13:30~13:35

1 県内に「うちどく(家読)」を広め隊!
～県域ネットワークにつながる教育行政と図書館の協働による成果～ 13:35~14:05

末次 健太郎(佐賀県伊万里市) 伊万里市民図書館 うちどく推進室 係長

平成25年に、うちどく(家読)をはじめ、家庭での読書活動や読み聞かせを実践している有志で「佐賀うちどくネットワーク」を発足、12月に伊万里市で九州大会を開催した。以後、県内にうちどく(家読)を広めるために、県内の各市持ち回りで毎年1回「佐賀うちどくフェスティバル」を開催。ネットワークの目的に賛同したメンバーと各市教育委員会、図書館職員のプロジェクトチームが「子どもゆめ基金」を活用して協働で運営、ネットワークの事務局を伊万里市民図書館に置いている。フェスティバルには毎回200名を超える参加者がある。

2 笑顔広がる「大内コドモジカン」
～自治会とまちづくり協議会の連携による子ども体験活動支援～ 14:10~14:40

佐伯 玲子(山口県山口市) 大内まちづくり協議会 文化教養部員

自治会単位での長期休業中の子どもの宿題支援や工作(竹細工、けん玉等)他体験学習支援。指導者は地域の大人やボランティアの講師である。大内まちづくり協議会が経費に対する補助金と企画・運営方法等に対する支援をし、平成28年3月から山口市大内地区で開始された。市民活動センター「さぼらんて」からの活動支援も受けている。注目は①地域のボランティアを活用し、その豊かな知識・経験を生かせる場になっている。②地域のボランティア人材を育成し、子どもの支援を通して、地域住民のいきがいや達成感を共有している。③地域の子どもと住民の絆を深める場となっている。

ティータイム 14:40~15:05

3 「かいじゅうネット」で笑顔と輝きを!
～海田住民活動ネットワークの活動から～ 15:05~15:35

神田 一之(広島県海田町) 海田住民活動ネットワーク 代表
石橋 京子(広島県海田町) 海田さつまの会 会員

知事への海田町訪問による海田の魅力発表をきっかけとして、平成24年2月に会発足。まちづくりを行う団体などが繋がり合うことで、互いに助け合いながら環境づくりや相互連携して「住んで良かった、住み続けたい、住んでみたい」と思われるまちの実現を目指している。具体的活動は、県道清掃、輝くまちづくり講習会、海田市祭り等である。注目は①まちづくり関連の17団体との連携・協働、まちづくり情報の共有と発信、②海田町との合同事業(行政との連携の在り方)、③自主事業の実施手法、④助成金の獲得や自主運営費の確保等である。特に、誇りある「まちづくり」の形成過程に注目して参加・交流がポイント。

4 「カタリ場」を活用した「ライフキャリア教育」の可能性
～中学生から大人までの益田市民が本音の対話～ 15:40~16:10

檜垣 賢一(島根県益田市) 益田市教育委員会ライフキャリア教育コーディネーター

平成28年の市の「ひとづくり協働構想」の一環である「ライフキャリア教育」の象徴的なプログラムが益田版「カタリ場」である。主催は益田市教育委員会と、「認定NPO法人カタリバ」の常駐職員との協働で企画・運営している。活動は、基本的には学校の授業の中で、人生経験豊かな地域の大人と学校に通う子どもたちが本音の対話形式で実施される。その目的は、「どんな環境でも日々を前向きに生き抜く力の涵養」と「将来益田を選ぶ種蒔き」であり、キャリア教育とふるさと教育の融合である。平成30年度は、市内の全小中高校の30校での実施が予定されている。「カタリ場」実践者による広がりも見えてきた。